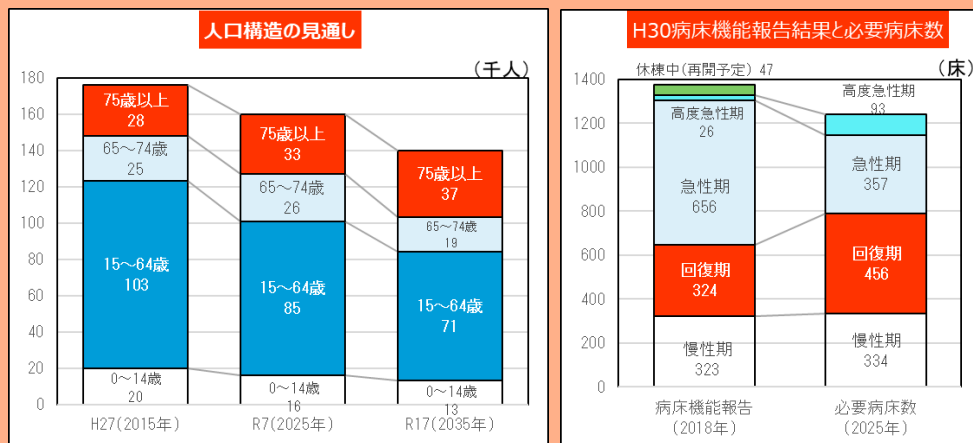


1 仙南医療圏における医療ニーズの変化



2 地域医療構想（仙南区域）

○ 回復期機能の充実

今後、**回復期の需要**が大きく増加すると見込まれるため、医療機関相互の連携を進めることで、病床を確保していく必要があります。

○ 在宅医療の充実

今後、**在宅医療等の需要**が大幅に増加することが見込まれるため、在宅療養支援等の整備を一層進めるとともに、診療所、かかりつけ薬局や訪問看護ステーションなどの多職種・事業所と連携して、必要な医療を確保していくことが重要です。

3 仙南医療圏における今後の連携の姿

地域の中核的な病院である、公立刈田総合病院とみやぎ県南中核病院が中心となり、他の病院等と連携しながら、必要とされる医療を確保していくことが重要です。

現状と課題

- 車で約20分の距離に近接し、**診療科目や医療機能が重複**。稼働率の低下や**医療従事者の不足**による病棟の休棟
- 短期・中長期ともに病院経営は苦しく、それを支える自治体財政を圧迫。安定的な医療提供のために、**早急な収支改善が必要**

今後の姿

公立刈田総合病院



回復期機能に重点

総合内科、透析、在宅医療等

病床数 300床→199床

分化・連携

急性期機能に重点

救急医療、高度医療、専門医療等

休棟中47床→開棟

みやぎ県南中核病院



分化・連携により期待される効果

- 将来ニーズを見据えた、医療の確保（**高齢化・医療需要の変化**）
 - 2病院の診療実績等を踏まえた効果的・効率的な連携・分化（**病床の機能・規模の適正化**、**医療従事者の適正配置**）
 - 連携・分化の推進による、収支改善（**安定的な医療提供**）
- **地域の実情や課題等を踏まえ、病床の機能分化・連携の推進等を図ることで、切れ目のない医療提供体制を構築**